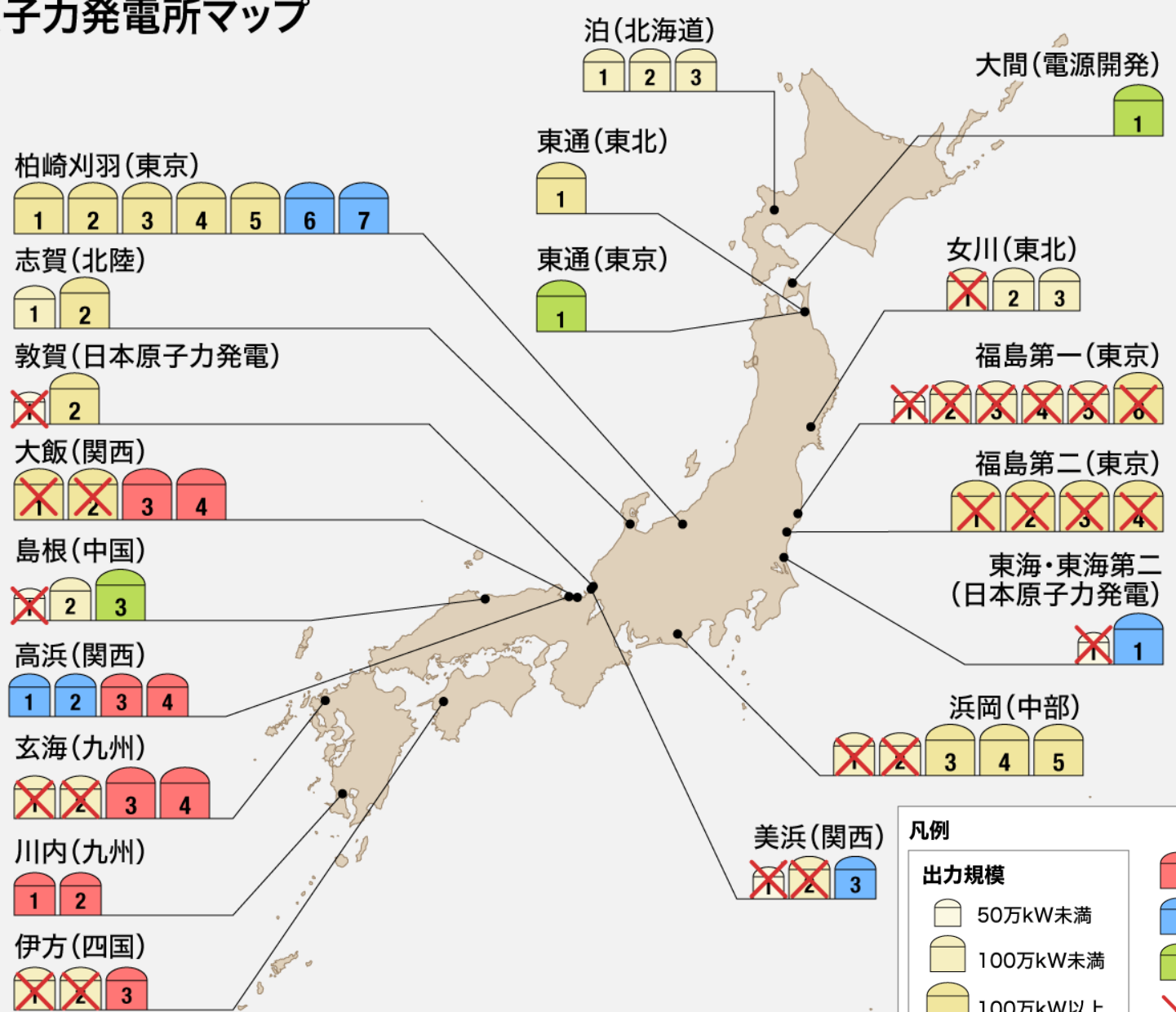


# 原子力発電所の現状と 島根原発の今後について

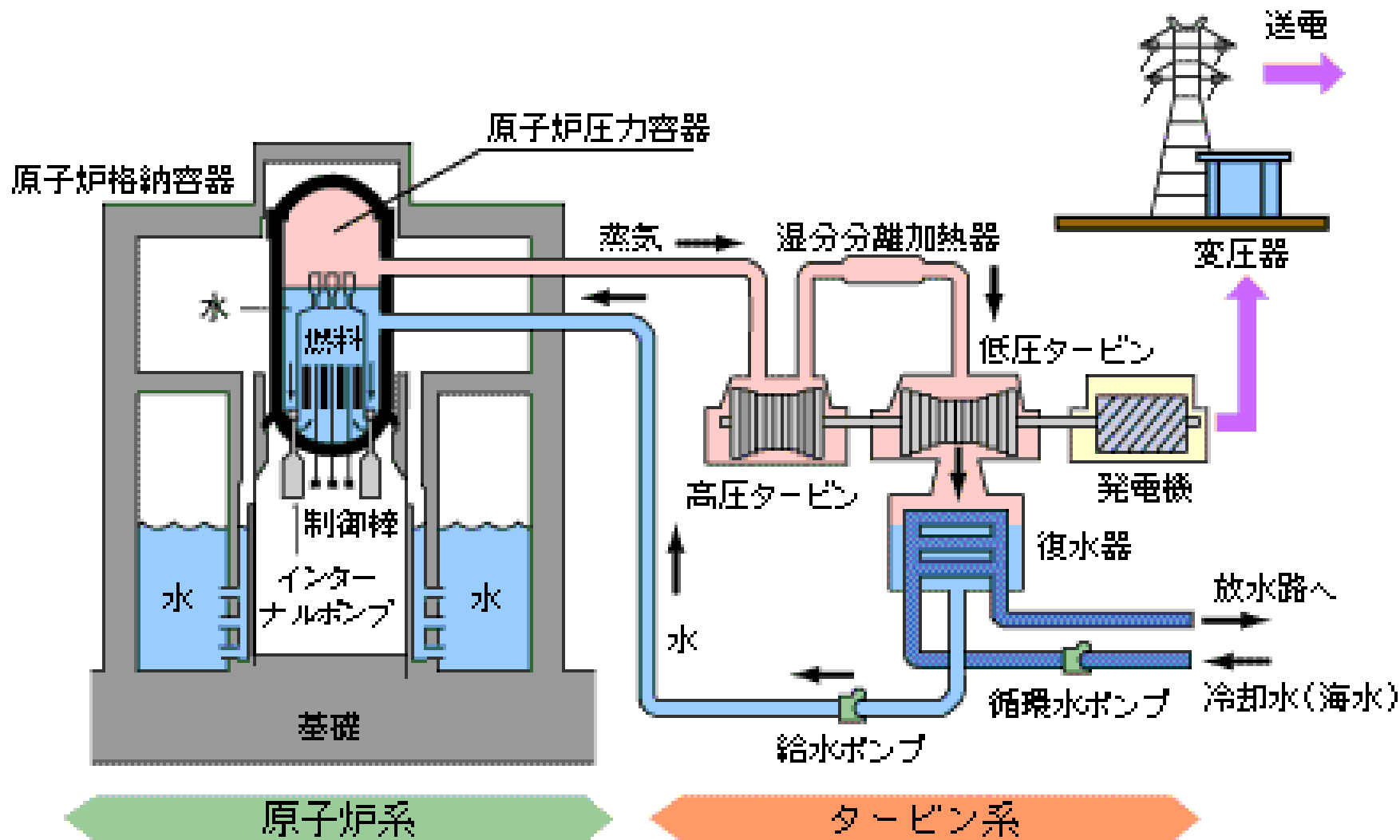
# 原子力発電所マップ



**凡例**

<b>出力規模</b>	再稼働
50万kW未満	新規制基準合格
100万kW未満	建設中
100万kW以上	廃炉決定済

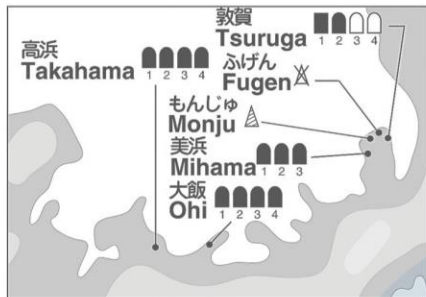
# 原子力発電システム (沸騰水型)



# もし、福島第一原発と同じ規模の事故が発生した場合 (海洋汚染含まず)

※六ヶ所再処理工場は表示されていません。  
 ※JAIF 社団法人日本原子力産業協会の地図を利用させていただきました。

炉型 Reactor	運転中 OP	建設中 UC	計画中 PL	閉鎖 CD
PWR				
BWR				
その他 Others				



島根 Shimane

上関 Kaminoseki

玄海 Genkai

川内 Sendai

柏崎刈羽 Kashiwazaki Kariwa

志賀 Shika

伊方 Ikata

- 10km圏内
- 20km圏内
- 30km圏内
- 50km圏内
- 80km圏内
- 400km圏内

事故初期(3月12日)の避難指示エリア  
 「警戒区域」として立入禁止/当初は避難勧告区域  
 「計画的避難区域」もしくは「緊急時避難準備区域」/当初は「屋内避難」、その後「自主避難」要請  
 かなりの地域で高レベルの放射線が検出/一部に「計画的避難区域」「緊急時避難準備区域」を含む  
 米国政府が在日米国人に向けて出した避難勧告エリア  
 食品安全基準その他の基準を上回る値が検出されている地域

大間 Ohma

東北・東通 Higashidori

東京・東通 Tokyo-Higashidori

女川 Onagawa

浪江・小高 Namie・odaka

福島第一 Fukushima I

福島第二 Fukushima II

東海 Tokai

浜岡 Hamaoka

2011.05.28更新

# 島根原発の状況

# 島根原発概要



# 島根原子力発電所の概要

		1号機(平成27年4月30日営業運転終了)	2号機	3号機(建設中)	
営業運転開始		昭和49年3月29日	平成元年2月10日	未定	
定格電気出力		46万キロワット	82万キロワット	137.3万キロワット	
原子炉	型式	沸騰水型	同左	改良型沸騰水型	
	定格熱出力	約138万キロワット	約244万キロワット	約393万キロワット	
	圧力	6.93MPa(70.7kg/cm <sup>2</sup> g)	同左	約7.07MPa(72.1kg/cm <sup>2</sup> g)	
	温度	286℃	同左	約287℃	
	燃料	濃縮度	約3.6%(取替燃料)	約3.7%(取替燃料)	約3.8%(取替燃料)
		燃料集合体	400体	560体	872体
		ウラン重量(全炉心)	約68トン	約97トン	約150トン
	制御棒	97本	137本	205本	
	圧力容器(寸法)	内径約4.8m×高さ約19m×厚さ約12cm	内径約5.6m×高さ約21m×厚さ約14cm	内径約7.1m×高さ約21m×厚さ約17cm	
原子炉格納容器		フラスコ型	まほうびん型	円筒型	
タービン	種類	くし形4流排気再生復水式	くし形6流排気再生復水式	くし形6流排気復水式(再熱式)	
	回転数	1,800回転/分	同左	同左	
	流量	2,450トン/時	約4,600トン/時	約7,300トン/時	
発電機	種類	回転界磁形3相交流同期発電機	同左	同左	
	電圧	18,000ボルト	15,500ボルト	22,000ボルト	
送電線		22万ボルト2回線(共用1ルート) ※H18.10:1・2号機開閉所接続		50万ボルト2回線	
主な特徴		<ul style="list-style-type: none"> <li>●国内の原子力機器メーカー(日立製作所)との共同研究により建設された国産第1号原子力発電所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●改良型格納容器の採用</li> <li>●燃料取替の自動化</li> <li>●制御棒駆動の高速化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原子炉内蔵型再循環ポンプの採用</li> <li>●改良型制御棒駆動機構の採用</li> <li>●改良型中央制御盤の採用</li> <li>●鉄筋コンクリート製原子炉格納容器の採用</li> </ul>	

# 島根原子力発電所



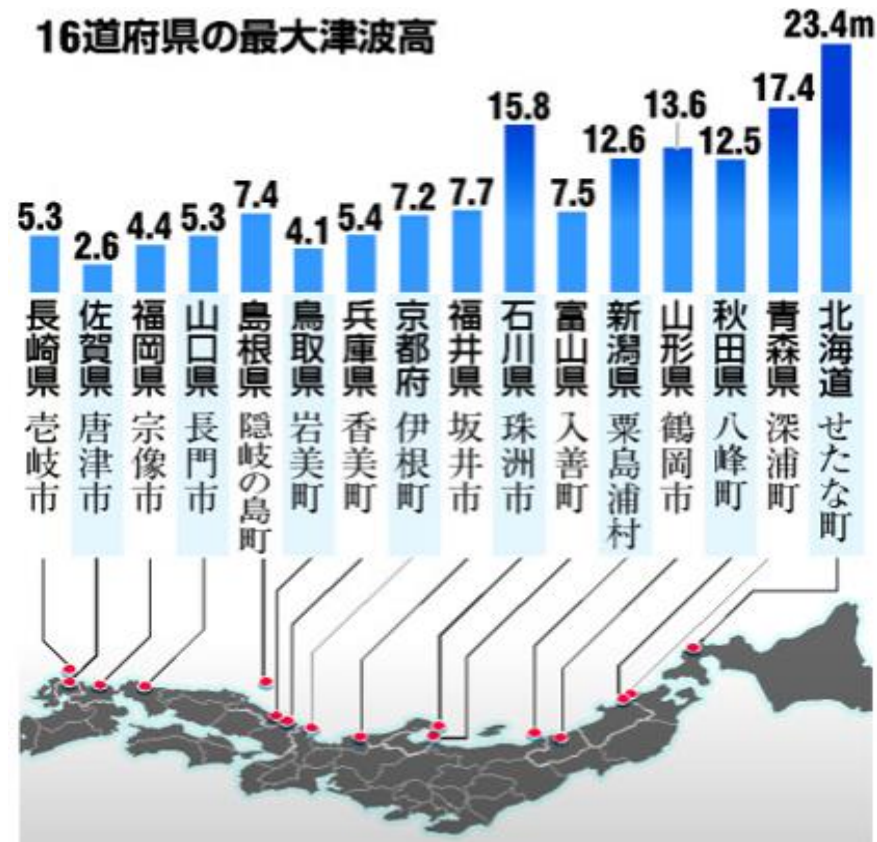


# 3号機





# 日本海での津波想定



出典：朝日新聞デジタル記事

日本海の地震津波想定、最高23.4m 国、初の検討会

2014年8月26日18時15分

<https://www.asahi.com/articles/ASG8Q7K1NG8QUTIL055.html>

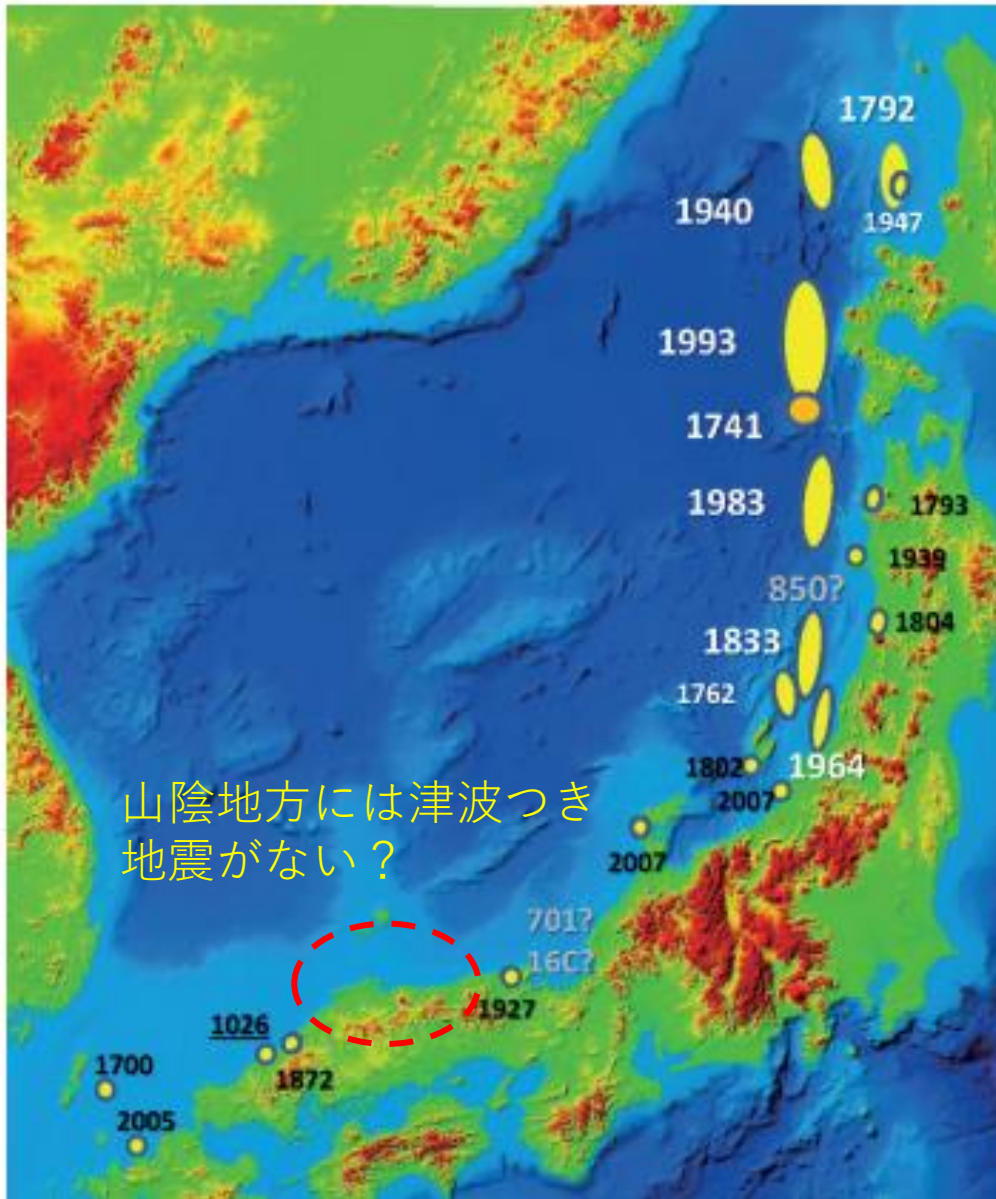
# 松江（島根原発）への津波



※「最大津波高」とは海岸線での津波高、「最短到達時間」は平地に30センチの津波が到達する時間

※「断層モデル」は最大津波高想定時のケース

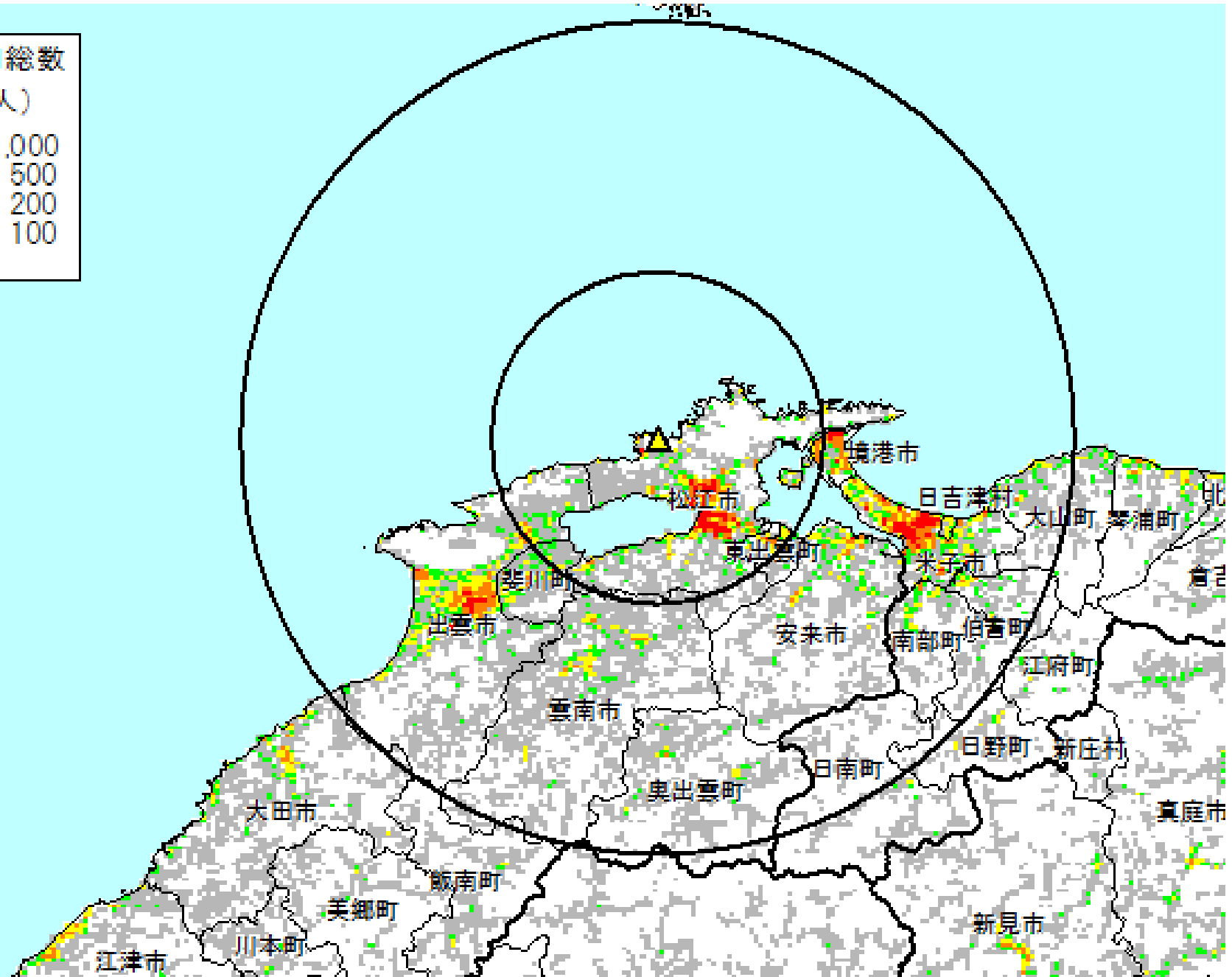
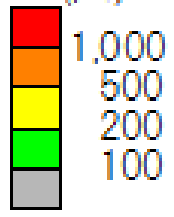
# 歴史的な日本海側の地震と津波発生



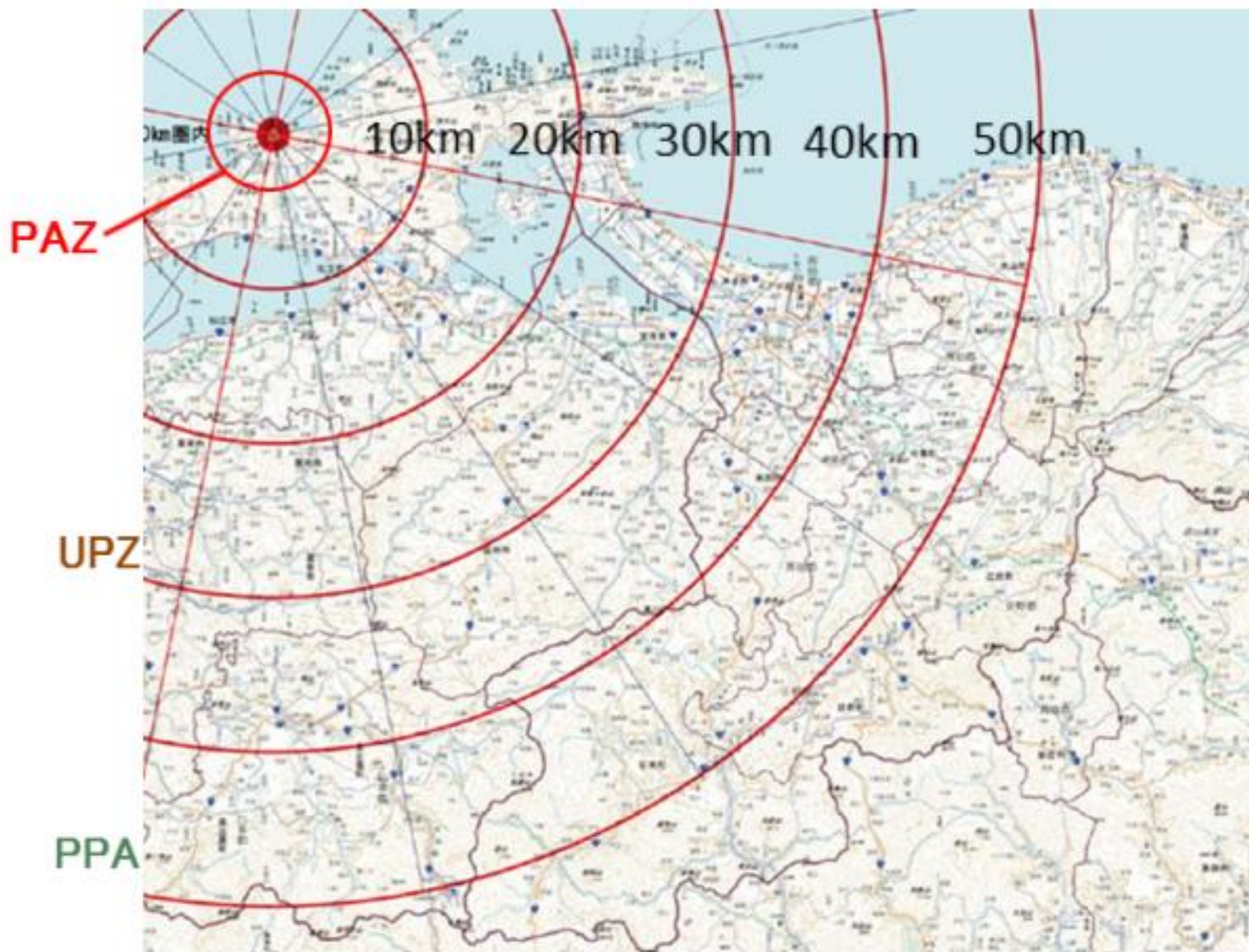
数字は西暦、  
白字：明瞭な津波を伴ったもの、  
黒字：津波が微弱あるいは無いもの  
灰色字：津波の有無が不明あるいは疑わしいもの  
領域橙色：噴火を伴う津波

人口總數

(人)



# 島根原子力発電所からの距離



**緊急時防護措置を準備する区域(UPZ)境界付近拡大図**

※島根原子力発電所から同心円半径30kmライン及びUPZライン





## 島根原発に防波壁完成 津波対策で総延長1.5キロ

13年9月27日



中国電力が、島根原子力発電所（松江市鹿島町）で建設していた海拔1.5メートル、総延長1.5キロの防波壁が26日、完成した。福島第1原発事故を踏まえ、1千億円以上を投じる一連の安全対策の柱で、再稼働・稼働に必要な設備となる。



1.5メートル級の津波が敷地を襲ったとされる福島の事故を受け、2011年7月に着工。既存の防波壁（海拔1.1メートル）をかさ上げしたり、新設したりして敷地の海岸沿いを囲った。鉄筋コンクリート製で厚さは1.5～2.4メートル。

建設中の3号機周辺の工事（延長約1キロ）を先行させ、12年1月に完了。定期検査で停止中の1、2号機周辺の工事（同約500メートル）がこの日、最終点検を終えた。防波壁の総工費は非公表だが数百億円とみられる。（樋口浩二）

（2013年9月27日朝刊掲載）

**注意** 原子力館の裏手にある  
県道からは、原子力館に  
入ることが出来ません

